

## 平成19年度の事業評価に関する対応方針について

NEXCO東日本では、委員会での意見を踏まえ、対応方針を以下の通り決定しました。

東北中央道(山形上山～東根間)の直接便益(時間短縮・経費節減・事故減少)を対象とした現時点の費用便益比は1.2となる。

農産物の流通の効率化、観光の活性化、救急医療活動の支援、冬期間の円滑な交通の確保など様々な整備効果を確認。

費用対効果分析の結果や利用状況、事業の効果発現から一定の整備効果が得られており、今後の事業評価の必要性はないものとする。

現在、隣接する区間が事業中であり、今後、ネットワークが強化される見通しであることから、関係する区間の事後評価において、当該区間の利用状況についても確認するものとする。